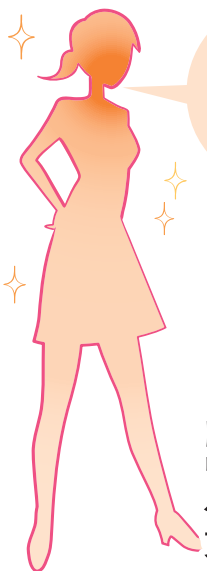


顎あご

の型の変化

鎌倉市歯科医師会

田中 俊充



最近町を歩くと、自分が子供の頃よりも足が長く顔が小さい、いわゆるスタイルのいい人や子どもが増えたように思えます。また日々の診療のなかでも最近の子は顎が細く歯が大きいと感じます。これはファッションなどによる錯覚なのか、それとも最近の人の体型や顔立ちが本当に変わってきているのか：そこで今回は現代人のプロポーシヨンや顔立ちの変化などについてお話ししたいと思います。

身長の変化

日本における20歳の身長身長の全国平均を明治33年からたどってみると、男女とも10年間で平均約1cmの割合で増加しています。特に第2次世界大戦後の身長身長の増加率は10年あたり2.2cmでしたが、最近になってこの増加率は緩やかになってきているようです。またプロポーシヨンも変化しています。身長身長の増加は座高座高の増加よりも脚脚の長さの増加によるものが大きく、過去50年間の胴胴の長さの増加率は+1.2%に対し脚脚の長さの増加率は+5.8%でした。やはり最近の子は脚脚が長くなっているのです。

顔の変化

実は身長と同様に骨格

的には頭頭、上顎上顎、下顎下顎とも大きくなっている傾向にあります。つまり小顔にはなっていないのです。しかし頭と下顎の形は変化してきています。まず頭の形ですが、時代とともに丸くなってきているというのです。これを短頭化現象短頭化現象といいますが、世界中の人類に共通する現象で、時代的に変化している小進化と考えられています。変化の要因として考えられるのは生活環境や生活様式の変化生活環境や生活様式の変化（肉食の増加、調理法の変化、軟らかな食物主体の食事など）により咀嚼筋咀嚼筋の1つである側頭筋が弱弱化し、脳を押しさえつける力が低下したため、結果として頭の形が丸くなってきていると考えられています。

歯の大きさの変化

最近の人ほど歯の大きさが増大する傾向にあります。特に奥歯2本を除く歯の幅は第2次大戦後以降増大しているのです。やはりこれも栄養摂取状態などの環境要因栄養摂取状態などの環境要因に関連があるものと推測されますが、しかし一方で歯の先天性欠如も増加

傾向にあります。先天性欠如とは本来あるべき歯が生まれながらに欠如欠如していることで、日本小児歯科学会によれば、全国の7歳以上の子ども10人に1人が永久歯の先天性欠如を認めるといえます。永久歯の先天性欠如は前から2番目の歯と5番目の歯、上顎より下顎に多く認められるようです。

このように現代人の体や顔は様々な進化と退化をしていることがわかりますが、では未来人の顔立ちはどうなるのでしょうか。最近の人類学人類学の研究では、2種類の方法で数百年後の未来人の顔貌を予想しています。1つ目は縄文人の顔立ちと、弥生人の顔立ちと、現代人の顔立ちの変化量から未来人を予測するものです。驚くのはこの両者から導かれた未来人の顔立ちが非常に近似近似していて、頭が大きく顎が細い、まるでアイスクリームコーンに丸いアイスののったような顔立ちになると予想されています。またこのことは前者の2000年間の変化と後者の50〜70年間の変化がほとんど同じであり、顔の変化が加速していることを示しています。

100年後、街を歩く人々の体型や顔立ちが楽しみのような、ちょっと怖いような気がします。

（田中歯科鎌倉）

参考文献
歯の豆辞典 山田博之
未来の日本人の顔

馬場悠男 原島博